

令和5年度に出された意見要望とその回答について Q&A

第6回組合員・認定農業者とJA役職員との語る会をはじめ、令和5年度に組合員の皆様より頂戴したご意見・ご要望に対する回答と進捗状況・今後の取り組みについてまとめさせていただきましたので、ご報告いたします。



ご要望にお応えしました！

Q 北方集荷場の電気が一つだけしかつかないため、修理をしてほしい。

A 電気の取替については、修理は完了しました。

Q 子牛セリ市の日には牛肉を買いに行ったが、売り場が撤去されていた。完売などで販売が終了した場合は、看板を設置してほしい。

A 牛肉販売にお越しいただいた方への配慮が足りず、大変申し訳ございません。現在は、販売終了をお伝えする看板を設置するよう改善致しました。

Q 提携先ATMの案内を広報誌へ載せてほしい。

A 提携先ATMの案内を、令和5年11月の広報誌に掲載致しました。その他、ご不明な点等ございましたら、最寄りの支店・支所までお問い合わせください。

Q 肥料・農薬の奨励金等、値引きについて教えてほしい。また、少ない量でも対応してほしい。

A 予約奨励金については、令和5年10月に次年度以降の奨励金に関するアンケート調査を実施し、様々なご意見やご要望を頂きました。奨励金と供給時値引きのどちらが良いかの問いに対しては、ほぼ同数の結果となった為、検討した結果、都度値引きの方が購入時の負担が軽減されることから肥料については供給時値引き対応とし、予約で注文いただくと少ない量でも値引きができるようになりましたので是非ご利用ください。
なお、農薬につきましては、病害虫の発生など事前予約が難しいこともあり引き続き奨励金対応とさせていただきます。令和5年度は、肥料値引き50,605千円、農薬奨励金12,166千円は1月にお支払いしました。

Q 広報誌掲載のクロスワードについて、スマホからでも応募できるように検討してほしい。

A 令和5年11月の広報誌より、QRコードを読み込むことで、JAあいらホームページの専用サイトから応募できるように対応致しました。

ご要望にお応えするため現在取組み中です！

Q 昼休みの休業時間に購買店舗に電話をしても出ないことがあるので、改善してほしい。

A ローターションで昼休憩を実施しながら、電話対応ができるよう改善致します。なお、職員の外出等により電話対応ができない場合は、注文専用ダイヤルにご連絡いただければ対応致します。
注文専用ダイヤル：0995-55-7312

ご要望にお応えするため現在取組み中です！

Q お茶について、もっと有利販売するためにJAが指導してほしい。

A 茶市場及び茶問屋からの取引情報を収集しながら、茶生産者への情報提供・営農指導に取り組んで参ります。

Q 肥料の注文書が届かない。

A 水稻肥料の注文書については、多くの方にお知らせするため広報誌への折込みを行っておりますが、全組合員への配布はできていない状況にあります。前年にご注文いただいた方には連絡等をするようにしておりますが、広報誌が届かない方については、こちらからお届けするとともに次年度は郵送対応もさせていただきますのでお申しつけください。

Q 県内市場に頼るのではなく、適正な価格で販売できるよう、販売力を強化してほしい。

A 契約的取引による県外取引先への販売や買取販売・県内外での販促活動等を行いながら、地域農産物のブランド力を高め、県外等で販売できる機会が増えるよう努めて参ります。

Q 有機野菜について、非常に手間がかかるため、JA独自でも有機野菜販売をしてほしい。

A 鹿児島有機だけでは販売先が限られるため、昨年11月に福岡の取引会場にて新規開拓を行いました。また、今年4月に「Aコープ重富店」がリニューアルオープンし、売り場も拡大されました。現在、地場消費のみでなく、県外発送に向けた数量確保等、販売強化に向けて生産者と協議しているところです。

Q 育苗センターにおける営農指導が行き届いていないのではないかと。

A 育苗期間中は、営農指導員が交代で巡回を行いながら、指導・管理を実施しております。今後も、より良い体制構築に向けて連携を図りながら、取り組んで参ります。

Q 初セリの際、マスコミの取材等あるので、大々的にイベントを開催し、PR活動を強化してほしい。

A 今年1月の初セリでは、始♡LOVE和牛女子とJA女性部と合同による「おしることお菓子の振る舞い」を実施しました。マスコミ各社にも大々的に取り上げられ、セリに賑わいを添えました。引き続き、このようなPR活動を計画して参ります。

Q 家畜市場について、県外の購買者が少ない。もう少し誘致活動を行ってほしい。

A 現在は約10年前と比べ、全国各地の母牛能力が大幅に改良されております。そのため、コストをかけて県外導入する購買者が少なくなっていることも要因と考えられます。今後は、県外購買者に加え、県内の大型農場購買者の誘致も推進する方針です。

Q 子牛のセリ市について、1日だけ頭数が多い日があるのはなぜか。

A 頭数は地区ごと割り当てにより決定しておりますが、近年の繁殖農家の大規模化に伴い偏ってしまうのも事実です。引き続き、平均的な頭数となるよう取り組んで参りますが、価格には大きな影響がないと考えております。

Q 成牛市場の牛を繋ぐ場所を番号通りの位置にし、登録証を吊り下げてほしい。また、妊娠牛も前日受付にして、他の購買者に名簿をFAXする等、誘致対策を講じてほしい。

A 成牛市場の繋留位置や妊娠牛の前日受付等は、他市場と施設・来場者等の前提条件が異なるため、現状での開催運営方法となっております。しかし、購買者誘致については更なる対策を実施して参ります。

ご要望にお応えするため現在取組み中です！

Q 子牛価格が低迷してから、購買者席の空席が多いように感じる。購買者数が少ない要因を教えてください。

A 相場が好調であった5年前の購買者数は、県内・外含めて年平均で83.8社であり、直近の購買者数も83.7社とほぼ同程度となっております。一方で、コロナ禍においては、生産者・出荷者のセリ場入場・着席を禁止していたため、現在も引き続き空席が目立っている状況です。

なお、令和6年に入り県内の新規購買者が数社、継続して来場されており、飼いやすと評価の高い去勢牛を中心に価格は安定しております。

Q 子牛セリ市について、毎月2地区毎に奇数月と偶数月に分けているが、小規模農家は日にちを選べないのか。

A 地域間格差があるため難しいところですが、同数に近づけるように取り組んでいるところです。

Q 子牛価格が低いので、肥育センターでの買い支えはどうか。

A 昨年の価格下落以降、下落幅の大きいメス牛を中心に買い支えを実施しており、現在のセンター在庫牛の約7割をメス牛が占めるまでになっております。なお、現在も随時導入可能な最大頭数を導入しております。

Q 子牛が増えてきている中で、管内での10%の導入を図ってもらいたい。また、購買者も県内で許容範囲に限度があるので、管内での導入・保留強化に努めてもらいたい。

A 本来、複数保有していた肥育牛センターを集約するために中央センターが設置されました。約3年前には中央センターの増設計画案も検討しましたが、土地取得協議が進まずに中止となっております。

また、増頭された子牛については、県内の大型農場購買者の誘致を中心として推進する方針です。

Q 全国和牛能力共進会の功績を、県外等にも広くPRしながら、販売促進に繋げてほしい。

A 第12回全国和牛能力共進会での功績においては、今後も、行政や関係機関等と連携しながら、県外のみならず海外等にも広くPRできるよう取り組んで参ります。また、JAあいらにおいては、本所や家畜市場入口へ横断幕の掲示や市場名簿等に成績の記載、購買者誘致等に向けたPR活動用の市場パンフレット作成にも取り組んでいるところです。

Q 異動等があっても、円滑な業務ができるような人員配置に努めてほしい。

A 定期異動については、適材適所・人材育成を基本とし実施しております。さらに、研修会への参加や資格取得の奨励等で職員的能力向上を図ることで、仕事の効率化を進め少数精鋭による業務運営を構築して参ります。

Q 共済の手続きについて、営業時間内に窓口へ行けない場合は、自宅等で手続きしてもらうことはできるのか。

A 各支店・支所に複合渉外（外回り）を配属しておりますので、事前にご連絡いただければ対応できます。また、Webマイページアプリをご登録いただくと、ご契約者様の加入内容の確認や住所変更・自動車共済のご継続等、インターネットを通じたお手続きができます。詳しくは、各支店・支所の共済担当者へご連絡ください。

Q 出荷にあたり、改善すべき点が多いと思う。寄り添った対応をしてほしい。

A 1月の役員会・総会、3月の出荷反省会において、出荷の改善点や箱規格での出荷等について検討を行いました。引き続き、生産者や関係機関と連携しながら、出荷協議会を開催いたします。

ご要望にお応えするため現在取組み中です！

Q 理事の定数は今後どうなるのか。

A 令和3年9月に中央会が示す「JAにおける役員体制のあり方に関する指針」について、女性役員の増員等を含め役員定数の在り方が示されたことから、令和4年度からこれまでの間、組織整備審議会および理事会で協議検討が重ねられており、最終的な協議を経て令和6年度の総代会に提案されるものです。

【選出の考え方について】

理事について、区域代表を、西部・中部・北部・東部それぞれのブロックからの選出とした場合、旧行政区域において理事が選出されないケースが予測される事から、令和8年度の改選までは、旧市町から1名以上は選出されるよう13名、学識経験者2名、女性代表2名、計17名の理事定数としました。なお、女性役員15%以上の達成に向けて、組織代表に1名以上の女性選出を推薦委員会に提案することとしています。

監事について、区域代表を、ブロック単位で西部1名、中北部1名、東部1名とし、員外1名、学識経験者1名と合わせて5名の監事定数としました。

Q 人間ドックについて、部会単位でもっと受診督励を行ってほしい。

A 人間ドックについては、広報誌へ毎月の日程やキャンペーン等の実施について掲載し、ご案内しているところです。今後も、広報誌掲載や店舗へのチラシ設置等周知を図ります。また、部会等でのご案内については、チラシ等を活用しながら総会等でご案内致します。

Q 営農指導員について、県の斡旋制度を活用することはできないのか。

A 斡旋制度の再設置はできないとの回答でありますので、引き続き、県連職員による指導の実施要請と農大・農業関連高校への訪問を実施して参ります。

Q 農家が集まって自由に情報交換が出来るような場所や機会がほしい。

A 令和5年度に開催しました「組合員・認定農業者とJA役職員との語る会」では、懇親会等を通じてJAや農家組合員同士の交流を深める貴重な機会となりました。令和6年度では、誰でも参加しやすい名称に変更することを検討していますので、多くの皆さまへの声掛けをしていただきながら、ご参加をお待ちしております。

Q 准組合員が集まって語り合える場を設けてほしい。

A 令和6年2月1日から15日にかけて「第6回組合員・認定農業者とJA役職員と語る会」を開催し、准組合員22名の方が参加していただきました。また、2月の全戸訪問活動では「准組合員との関係性強化運動」をテーマに活動し、准組合員463先と対話活動を実施致しました。この他にも令和6年度においては、准組合員等を対象とした協同組合講座の開催に向けて取り組んでおりますので、その際はご参加の程宜しく申し上げます。

Q 農協との接点が少なくなっているように感じる。

A 全職員による全戸訪問活動や組合員・認定農業者との語る会等を通じて、組合員の皆さまの声を聴く活動に取り組んでいるところです。また、次年度はコロナ禍により開催を見送ってしまいましたが「支店・支所まつり」の開催を計画しており、よりJAを身近に感じてもらえるよう取り組んで参ります。

Q 後継育成、担い手不足等の問題に積極的に取り組むとともに農業に魅力を感じれるよう支援をしてほしい。

A 行政と連携し、補助事業等を活用しながら新規就農者の育成・支援に取り組んでいます。R5年度は管内で新規就農者数が17名となりました。今後も就農相談体制と新規就農者の育成・支援に努めて参ります。

ご要望にお応えするため現在取組み中です！

Q 購買店舗の人員が少なく窓口で待たされることがあるので改善してほしい。

A 農繁期においては、特に来店者が多く、お待たせするケースが多くなっております。農繁期の来店を分散するため、昨年より水稻肥料・農薬の集合販売を開催しております。令和5年度は562先で約15,000袋を事前にお引き取りいただきました。少しでもお待たせすることを減らせるよう今後も取り組んで参ります。

Q 農薬の在庫が少ない。もっと増やすことはできないか。

A 農薬につきましては、在庫ロスにならないよう管理しておりますが、令和6年1月より前年度に供給した品物は、本所が主体となってまとめて発注するよう改善いたしました。なお、特殊な農薬等につきましては、経済部・購買店舗へご連絡いただければ早急にご準備いたします。

Q 専門職の人材が不足しているのではないか。

A (農産・畜産指導員)

営農指導員については、定年等の退職に伴い、人材が確保できていない状況です。今後、営農指導体制の充実を図るため、中途採用や職員登用などを積極的に進めるとともに、より指導業務に専念できる体制づくりに取り組んで参ります。

(農機センター)

技術員等の要員不足が課題となっており、対応力を強化するため、購買との連携による農機センター体制を検討・実践したいと考えております。技術員のサポート業務を購買職員で担うことができないか検討を進めて参ります。

Q 物価高騰している中、米の価格は低迷している。どうにかならないか。

A 当JAでは一般米の全量買取りを継続して実施しています。R5年度産米の買取価格は昨年と比較して、300円の上げとなりました。R6年度においても、一般米全量買取りを継続しながらなるべく高値で取引できるよう努力して参ります。

Q 農産部門に力を入れてほしい。

A 営農指導については、生産者の要望及び生産指導に添えられるよう、各部会を中心とした栽培講習会や状況に応じた小単位の指導、圃場等の巡回を行います。なお、地域営農ビジョン品目の4品目（有機野菜、かぼちゃ、白ネギ、ごぼう）については、経験豊富な農家を営農アドバイザーとして委嘱し、農家の巡回指導等をお願いしております。

Q 職員の退職を防げないか。

A 待遇を考えながら長く働ける職場になるよう対応しております。しかしながら、時代の背景や退職にも自己の都合等もあり、個人を尊重しなければならず、やむを得ない場合もありますことをご理解ください。

今後検討して参ります！

Q 農畜産物の販売について、県外や海外等で販売するなど、販路拡大に努めてほしい。

A 令和5年度においては、東京KITTEで販促活動や行政と連携して全共の功績を海外にPRするなど、活動を行ってきました。販売流通の観点からも、今後は商談等の専門的知識の習得に向けた職員育成など、販路開拓の強化に向けて検討して参ります。

今後検討して参ります！

Q 購買店舗に知識豊富な専任者を配置してほしい。

A 指導員との連携や経済連等の研修に参加することで職員の知識向上に努めています。今後も職員自ら継続的な知識の習得に努めるとともに定期的に勉強会を開催し指導していきます。また、購買店舗のパソコン・タブレットで農業に関する適正な使用方法などを検索できる「農業電子図書館」を導入していますので、組合員の皆様のご質問に即時に対応していきます。購買店舗の窓口へ病気の葉や虫を持参していただければ、より詳しい対策をお伝えできると思いますのでご協力の方よろしくお願い致します。

Q 購買店舗の効率化について、「DX化」を検討していないのか。

A スマートフォン等から注文ができる受注システムの導入について、費用対効果の試算や利用者拡大に向けた対策の検討を進めています。

Q ライスセンターの機械が老朽化しているため、新たに更新するなど対策を講じてほしい。

A 機械の更新については、各ライスセンターとも老朽化が進んでおりますので、今後は利用状況を検証しながら、集約や広域での運用も視野に入れて検討して参ります。

Q JAあいら管内のお米生産者を対象とした「米食味品評会」を開催することはできないか。

A 農産物検査において、品質検査を実施しております。現在、食味検査は実施しておりませんが、今後必要があれば検討して参ります。

Q JAへ出荷するなかで連合会等の手数料が高い。見直し等は考えていないのか。

A 手数料については、連合会との協議も必要ではありますが、生産者に対する還元の見直しも実施しているところです。今後も何か支援できないか検討して参ります。

Q 高齢化が進むなか、労働力確保対策について、何か検討しているのか。

A 労働力が必要な農家と短時間でも働きたい人達をマッチングするアプリを活用することで、労働力確保対策とならないか検討を進めているところです。

ご理解ご協力をお願いいたします！

Q 購買店舗が昼休業しているが、どうにかならないか。

A 職員数の減少をはじめ、事業環境が厳しさを増すなか、全ての部署で少数精鋭による事業運営を行っております。一方で国が推進する働き方改革もあり、JAとしても職員の労働環境の改善に取り組む必要があり、一昨年より購買店舗につきましても、可能な限り影響の少ない農閑期である12月から3月まで昼1時間休業させていただいております。ご不便をお掛けする場合がありますが、ご理解とご協力をお願い致します。

Q 廃プラ回収が8月と12月の年2回開催されているが、12月から8月までの期間が長く廃プラの保管に困っている。年3回に増やすことはできないか。

A 廃プラ回収につきましては、JA・行政の担当者が行っておりますが、回収日の人員確保が厳しく、ご要望にお応えすることは難しい状況です。いただいたご意見は廃プラ協議会の総会に提案させていただきます。

ご理解ご協力をお願いいたします！

Q 購買店舗について、17時以降も営業することができないか。

A 時間外営業については、これまでもご要望があったことから農繁期に実施してはいたしましたが、ご利用がほとんど無かったことや職員の労務管理、採算性を考慮し現在は実施していません。

Q ライスセンターについて、待ち時間のないようスムーズな対応をしてほしい。

A 持込み順に対応しており、最盛期にはお待たせすることがあると思いますが、ご理解ください。

Q 大豊作を再度販売してもらいたい。

A 現在、大豊作の袋物については販売を停止しており、バラ物の販売のみとさせていただいております。なお、袋物をご希望の際は、他銘柄の商品を販売しておりますのでご利用ください。

Q 子牛セリ初日は去勢が多く出され、2日目は雌だけ出す傾向にあるのではないかと。また、この傾向は価格に影響を及ぼしているのではないだろうか。

A 令和4年1月から令和6年2月までの性別ごとの上場頭数の平均を見ると、(去勢)1日目360頭・2日目240頭、(雌)1日目220頭・2日目230頭と、やや1日目の去勢が多くなっております。
また、落札価格を同じように見ると、(去勢)1日目535千円・2日目538千円、(雌)1日目416千円・2日目437千円となっており価格に大きな影響を及ぼしているとは考えておりません。

Q JAでWCSの買取を行い、管内の畜産農家へ販売を行ってほしい。

A JA単独による事業としての取り組みは費用対効果が見込めないことから、地域振興局と連携し、補助事業を活用した事例を調査しましたが、そもそもWCSについては事業対象外であり、かつWCS以外の作物でも九州内では事例情報がございませんでした。現状ではWCS買い取り及び販売は予定しておりません。
なお、今後も引き続き畜産農家にとって活用可能な情報がないか、収集に努めます。

Q 北方集荷場の保冷庫が壊れている。野菜を出荷し、きちんと手数料も払っているのに修理をしてほしい。

A 保冷庫については、冷媒装置は新品に変えていますが、扉のスイッチが壊れており、部品もないという事で修理が出来ていませんが、手動で利用する事は可能です。ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

その他の意見に対する回答

Q セリ市の途中で、パンの配布等が行われる休憩時間があるが必要なのか。

A 休憩時間を活用しながら、関係性構築の一環として取り組んでおり、他家畜市場においても同様な取り組みが行われております。
現在のところ、購買者からの意見や苦情等は来ておりませんが、必要性も含め今後も購買者の意見を最優先に対応して参ります。

その他の意見に対する回答

Q 令和5年に開催した婚活パーティーの実績を教えてください。

A 令和5年度は、4年ぶりに「JAあいら婚活Party」を開催し14組の男女が参加し、回転お見合いや宝探しゲームなどで交流を図りながら、当日は8組のカップルが成立しました。

Q 蒲生庁舎のATMについて、庁舎の建て替え後はどうなるか。

A 蒲生庁舎のATMにつきましては、蒲生支所への移設が完了しました。

(組合員と語る会資料より)

Q 自己改革重点取組み項目の品目毎の目標について、R5末見込に比べて、R6目標が高いのではないか。

A 目標値については、R3年度に策定した「産地づくり10年ビジョン」の数値で作成しておりますので、乖離が生じていますが、皆さまからのご意見を踏まえてR6年度事業計画では適正な目標を設定しました。

Q 今後、支店・支所や購買店舗が閉鎖されることはあるのか。

A 現時点において、どこかの店舗を閉鎖するという計画はありませんが、令和3年開催の第29回通常総代会にて決定しました「JAあいらの店舗再編」に基づき、当面残す店舗については、毎年、実績を管理しながら2年連続赤字となった場合、廃止することとしておりますので、ご利用をお願い致します。

Q 物産館を造る予定はないのか。

A 現時点で物産館建築の計画はありませんが、令和4年4月、Aコープ国分店内への「JA産直市場オープン」をはじめ、管内Aコープのインショップが大変盛況となっています。また、令和6年4月にはAコープ重富店が新装オープンし、こちらにも生産者コーナー「JA産直市場」を設けました。今後も、生産者の販路拡大や農産物の地産地消が図れるよう、出荷登録者を増やししながらインショップ事業を強化して参ります。

Q 台風後の農作物の被害調査にJAは来なかった。組合員に寄り添った対応を心掛けてほしい。

A 被害があった先すべてを網羅できておりませんが、災害が発生した場合は、行政と連携を図りながら効率よく被害確認ができるよう実施しているところです。

Q R5年度の定年退職者数、R6年度の新規採用者数を教えてください。

A 令和5年度の定年退職者は2名、令和6年度の新採用者は7名となっております。

Q 他企業と連携する等、農業生産はできないか。人材確保にも繋がると思う。

A JAが農業生産を担うことは人材不足の観点からもすぐには実現が難しい状況にあります。連合会はもとより、行政・商工団体等とも連携しながら検討して参ります。

Q 他県で農協の広域合併が進んでいるが、鹿児島県の広域合併の予定はあるのか。

A 現時点では合併の予定はありませんが、組織改編に対応できる体制づくりに向けて、各JAの自己資本比率を向上させるなどの県統一基準を設けて、県全体で取り組んでいます。その取組状況を確認し、組織改編が必要か否かについて、地区組合長代表者会議で毎年協議しています。

あいら共同(株)に対する意見要望

Q SSのガソリンの値段が高い。もう少し安くしてほしい。

A 価格につきましては、毎月周辺のSS等の調査を行い精査しております。フルサービスとセルフサービスでは販売価格に差がございますが、組合員、利用者の皆様のご理解を得られるよう努めて参ります。

Q やすらぎの控室に椅子を準備してほしい。足が痛いときに畳部屋での食事等が辛い。

A 現在、やすらぎ斎場の畳の間においては、畳用の椅子は準備しておりませんでした。つきましては、畳用の椅子を準備できるよう検討して参ります。

